

G空間情報センター

ニュースレター 第47号 2025年1月発行

【目次】

- [1. \(一社\) 社会基盤情報流通推進協議会 10周年を迎えて](#)
- [2. 上位アクセス状況\(集計期間：2024.11.1-12.31\)](#)
- [3. 最新のお知らせ](#)
- [4. 地域共同で利用可能なデジタルツイン環境となるデジタルシティサービスの拡張とデジタル版 BID の構築](#)
- [5. 注目のコンテンツ紹介](#)

1. (一社) 社会基盤情報流通推進協議会 10周年を迎えて



一般社団法人
社会基盤情報流通推進協議会
代表理事 関本 義秀

1. 設立 10 周年を迎えて

[一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会](#) (略称：AIGID、以下「当会」) は、2014 年 4 月に活動を開始し、おかげさまで 10 周年を迎えることができました。当会は、産官学を問わず組織の壁を越えた多様な社会基盤情報の統合・融合と価値創出実現を目的として、G 空間情報センターの運営を始めとした様々なプロジェクトを展開しています。

AIGID

一般社団法人 社会基盤 情報流通 推進協議会

Association for Promotion of Infrastructure
Geospatial Information Distribution



図1：[当会HP](#)

2. 当会の10年の歩み

当会は、設立以来、地理空間情報の流通の中核を担うべく、平時及び災害時の情報提供やオープンデータ連携のハブとしてG空間情報センターを運営してきました。近年では、これに加え、地理空間情報を活用する [My City Report](#) や [My City Construction](#) 等の自治体向けサービスや、デジタルツイン環境構築を目指した三次元都市モデル提供のための [デジタルシティサービス](#) の展開を進めています。

当会は、今後もG空間情報センターを中心としつつ、オープンデータや関連サービスのAPI等で協調領域を強化し、民間企業サービス群を支え・繋ぎ、スマートシティにおけるエコシステム創成の実現に向けた取り組みを進めていく予定です。

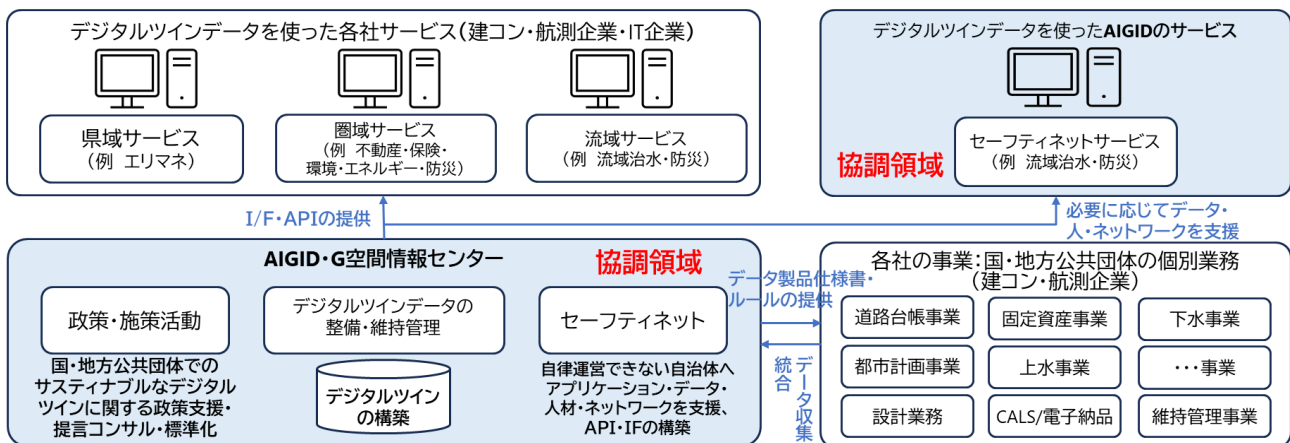


図2：これからの事業展開構想

3. 10周年記念式典を開催いたしました

このたび、当会の10周年を記念して、第一ホテル東京にて記念式典を開催いたしました。式典には、日頃から当会の事業にご支援・協働いただいている行政・研究機関の皆様や、各事業の推進を担う幹事企業の皆様等、多くの関係者の皆様にご参加いただきました。ありがとうございました。

なお、10周年記念式典の様子は、以下よりご視聴いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=VXp1JgDP3Fo>

今後とも、当会をよろしく願いたします。



写真：10周年記念式典 全体写真

2.上位アクセス状況(集計期間：2024.11.1-12.31)

登録ユーザー数	99,991 名
期間アクセス数	731,808
登録組織数	695 件
データセット数	14,386 件
ファイル数	88,741 件

人気のデータセット

1	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 中・西部 点群データ
2	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区
3	長野県_CS 立体図
4	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 (2023 年度)
5	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京 23 区 (2022 年度)
6	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 大阪市 (2022 年度)
7	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 札幌市 (2020 年度)
8	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ
9	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 港区 (2023 年度)
10	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 千代田区 (2023 年度)

3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[コチラ](#)

- ・ G 空間 EXPO の最新情報は[コチラ](#)
- ・ UDC 作品本応募の締切は 1 月 25 日です☆ 詳細は[コチラ](#)

最終更新順データセット一覧は[コチラ](#)

*リンクを開く際、少しお時間がかかる場合があります。

4. 地域共同で利用可能なデジタルツイン環境となるデジタルシティサービスの拡張とデジタル版 BID の構築



一般社団法人
社会基盤情報流通推進協議会
岩崎 秀司

1. デジタルシティサービスとは

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会 (AIGID) は、これまでの G 空間情報センター等の運営に加え、デジタルツイン環境の提供により都市全体の管理の高度化を図る「[デジタルシティサービス](#)」を 2020 年 6 月にリリースし、順次バージョンアップを進めています。「デジタルシティサービス」は、自治体ごとに保有している多様なデータを G 空間情報センターと連動した形で保管・管理するとともに、3D 地図上で可視化等を行うことが可能なデジタルツイン環境です。また、自治体が防災分野や都市計画分野等の施策検討の際に必要な共通的な機能を実装した地域共同で利用可能なクラウド型のサービスです。

これまで自治体は独自に Web サイトを立ち上げ、個別にデジタルツイン環境を提供していました。その為、専用のシステム環境やコスト面での負担、また利用者にとっては利用したい自治体を都度探す手間等、様々な課題がありました。これらの背景を踏まえ、「デジタルシティサービス」は同一プラットフォーム上での利用サービスを目指し、2020 年度に発足した自治体や有識者が参加した「デジタルスマートシティ研究会」での議論を経てバージョンアップを図りながら、ついに 2023 年 4 月に全国の自治体での利用が可能となり、公開を始めました。

また、2023 年からは、全国約 15 団体の自治体と関係省庁などの有識者が参加する「都市アプリケーション連携実装研究会」を発足し、デジタルシティサービスを基軸としたデジタルツイン環境の構

築を目指すための議論や開発状況の共有を行い、自治体業務で普段使いできるサービスに向けて拡張を図っています。



What's New

- 2024/11/28 [法務省の登記所備付地図データがデジタルシティサービスで閲覧可能になりました](#)
- 2024/09/24 [人流データを可視化するアプリケーションが全国の自治体で利用可能になりました](#)
- 2024/06/14 [サービス概要等のページを更新しました](#)
- 2024/05/27 [「デジタルシティサービス」の機能改良及び利用範囲拡大と「都市アプリケーション連携実装研究会」への参加自治体追加募集に関するお知らせ](#)
- 2023/10/13 [3D都市モデル（PLATEAU）や東京大学で研究開発を行った疑似人流データを新たに可視化しました](#)



図1：デジタルシティサービストップページ (<https://www.digitalsmartcity.jp/>)

2. デジタルシティサービスの機能と特徴

デジタルシティサービスは、各都市の公共施設やインフラに関するデータ・都市計画・ハザードマップなどの情報を3次元都市空間上でスムーズに可視化が可能となります。また、自治体での施策を検討する際に有用な「疑似人流データ」や「登記所備付地図データ」などの多様な地理空間情報を全国の全ての自治体ごとに閲覧することが可能です。

また、本サービスは自治体の職員だけでなく、住民や地域に関係する団体等も閲覧することができます。まちの状況を分かりやすく可視化することで、まちの課題や今後のまちのあり方を住民参加のもと、検討していくための重要な役割を担うことが可能となります。

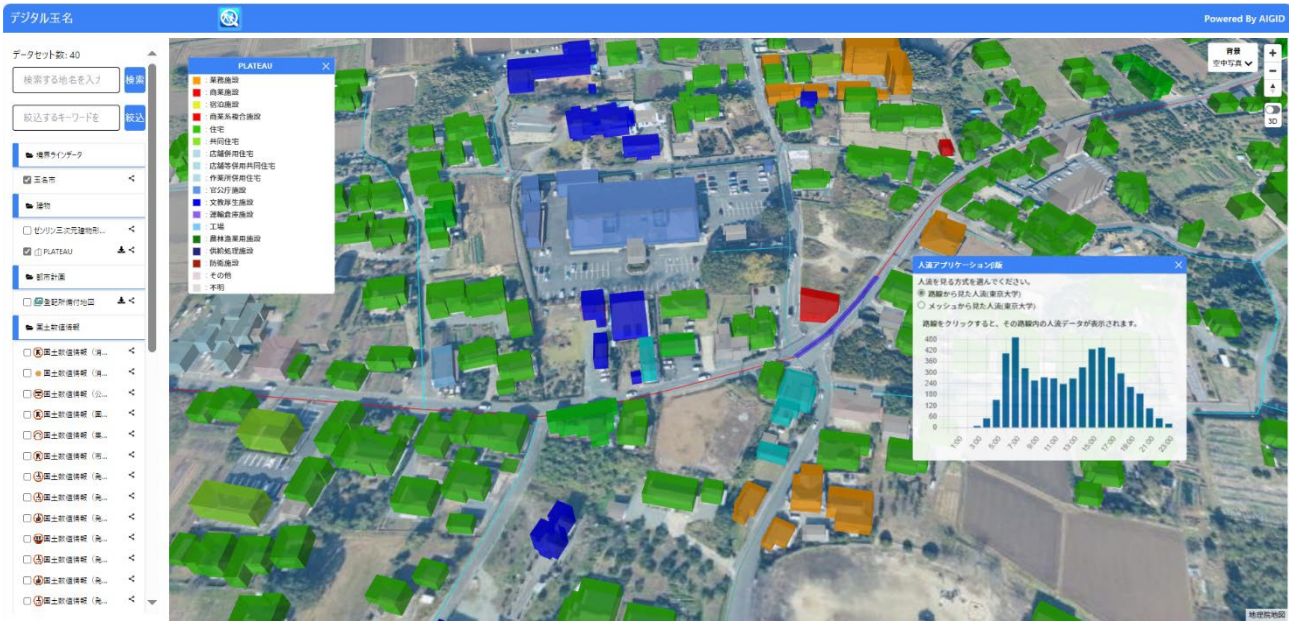


図2：擬似人流データの可視化例（デジタル玉名）

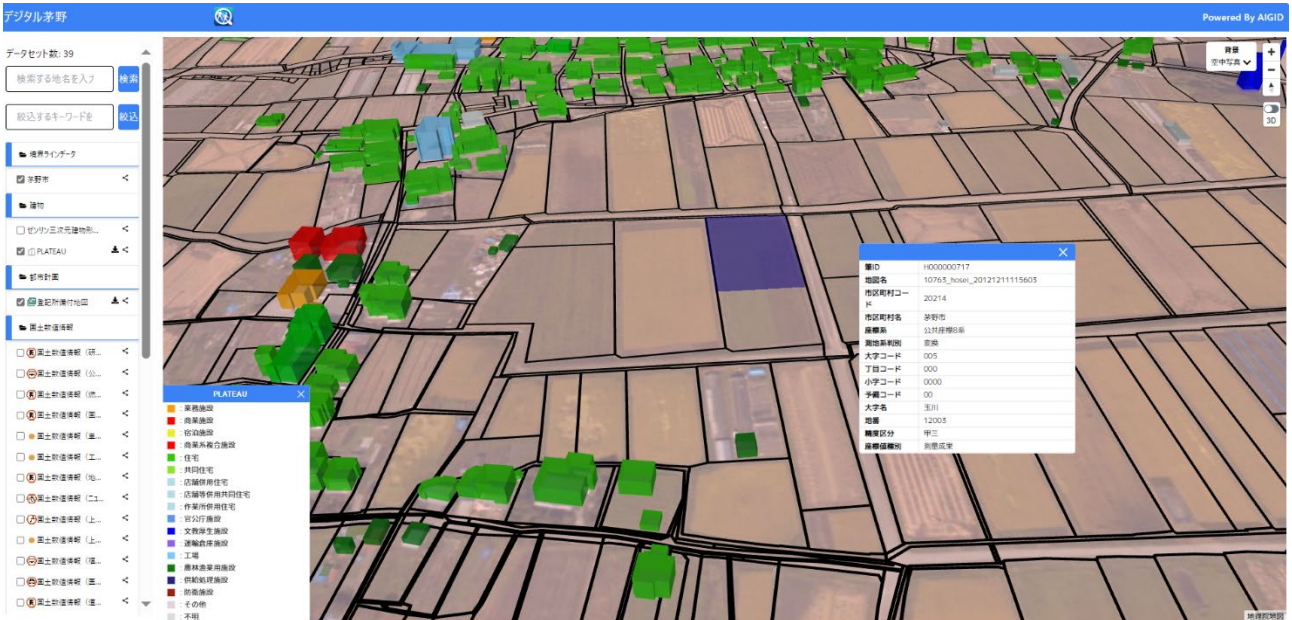


図3：登記所備付地図データの可視化例（デジタル茅野）

3. デジタルシティサービスを活用したデジタル版 BID の構築

生成 AI や 3D 都市モデルなどの技術的視点やデジタル田園都市国家構想などの政策変化により、地域におけるデジタル化が社会的に求められています。基礎自治体の独自対応は人的・経費的負担が大きく、また、補助金依存やベンダー依存になりがちで地域コミュニティが抱える課題を十分に反映できていない状況です。そのため、地域ごとの特性に応じて実態に即したサステナブルなランドデザインを描きにくい状況になっています。

そこで、小規模の自治体においても地域課題の解決に向け持続可能な取り組みが行えるように、デジタルシティサービスをプラットフォームとして、地域の行政・事業者等が資金を分担し自立的に地域改善を行う「デジタル版 BID※」の構築を目指しています。現在は、デジタル版 BID の構築を目指

し、静岡県裾野市・富山県南砺市で地域の行政・市民・事業者が主体的に活動する「地域デジタル協議会」を両地域でそれぞれ 2023 年に立ち上げています。

※デジタル版 BID とは

地域に関わる人々が行政に頼ることなく自主的に計画を定め、資金を分担して地域改善を行っていく活動である BID (Business Improvement District) の考え方を参考に、デジタルデータを活用しながら地域課題を解決する仕組みです。

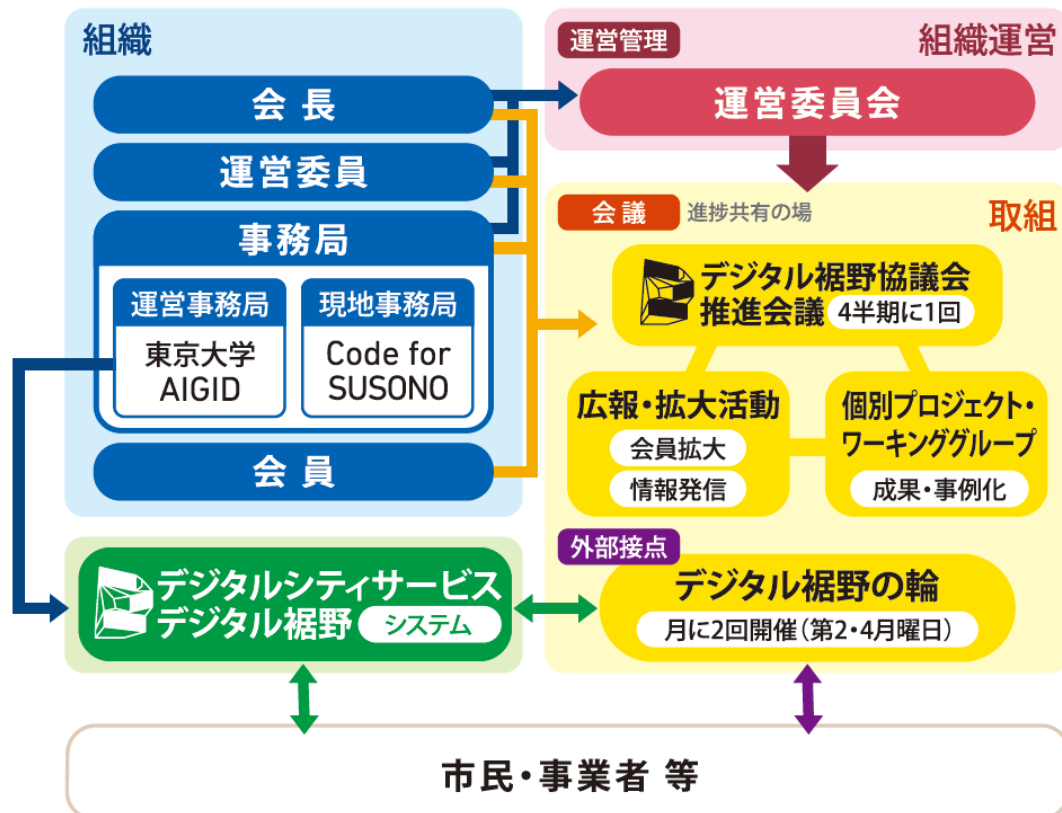


図4：デジタル裾野協議会の運営イメージ

静岡県裾野市・富山県南砺市の両地域では、地域のデジタル化に興味がある人材を結びつけることを目的に、地域に深くかかわるキーパーソンの皆さんと地域の DX の実践例などをディスカッションしながら学ぶ「[デジタル裾野の輪](#)」・「[デジタル南砺の輪](#)」や、デジタルシティサービスを活用しながら地域課題の解決に向けた各種「プロジェクト」をそれぞれの現地事務局が主体となり進めています。今後は、デジタル版 BID の実践に向けて、両地域の相互交流を図るとともに、新たな地域での協議会の設置に向けた活動を推進していく予定です。

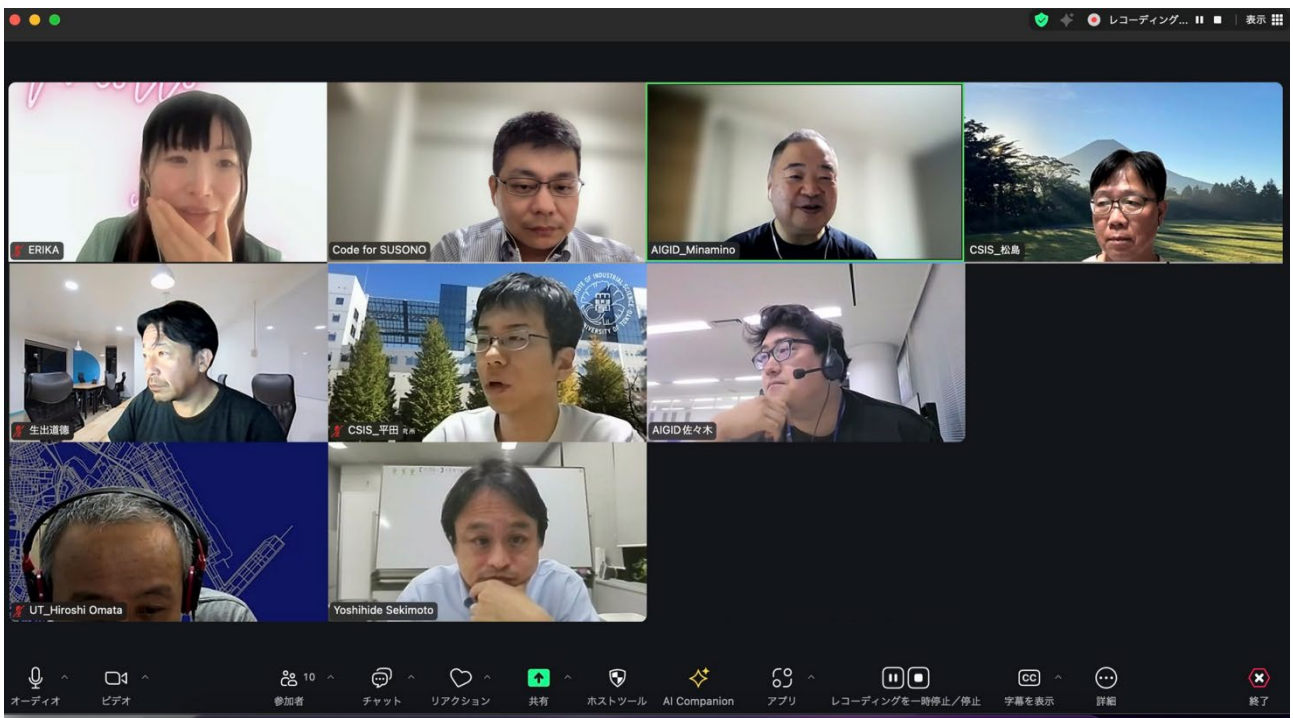


図5：地域のDXの実践例などのディスカッションの様子（デジタル裾野の輪の例）

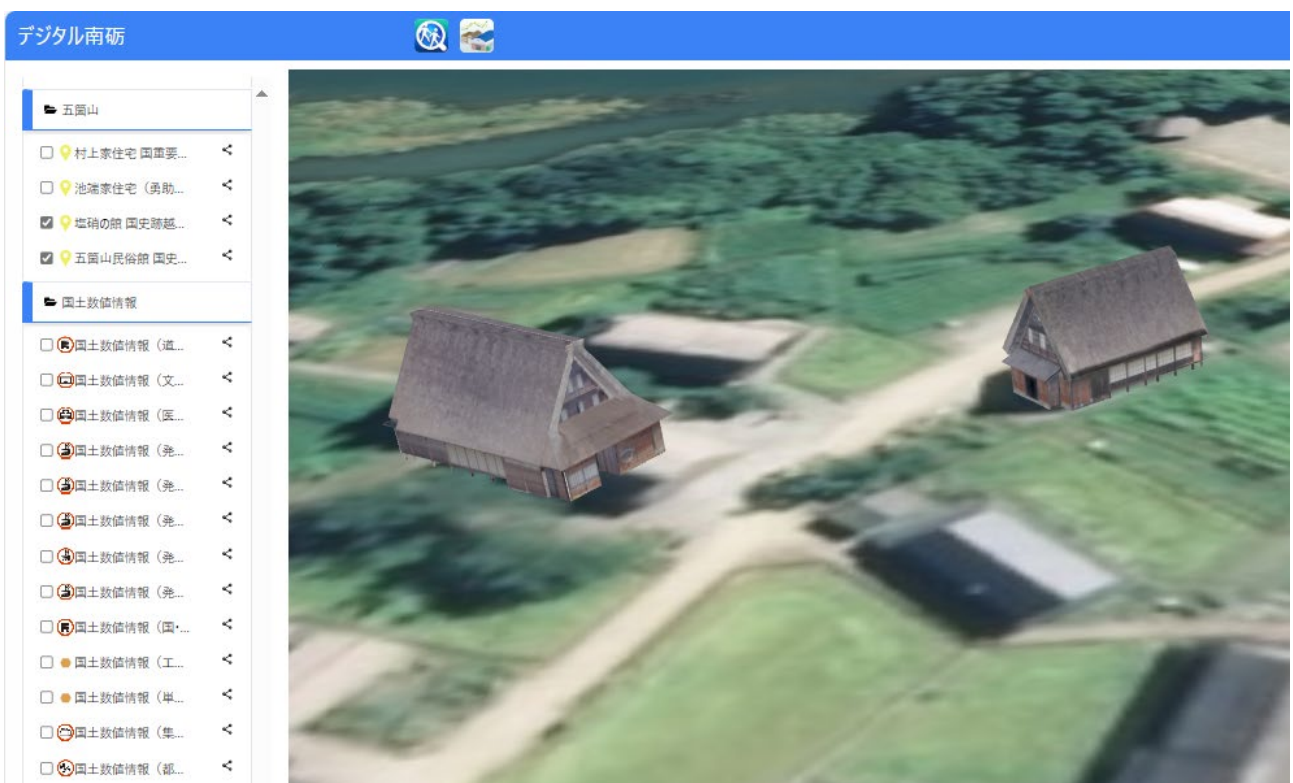


図6：デジタルシティサービスを用いたまちづくりの検討例
（富山県南砺市 五箇山三次元データ整備プロジェクト）

4. 今後の展開

デジタルシティサービスは、自治体の課題・ニーズを確認しながら、デジタル田園都市国家構想の政策などに合わせて、都市の課題解決につながる様々なアプリケーションやシミュレーションとの連携を目指して、自治体の施策検討などに普段使いできる真のデジタルツインとしての機能を強化していく予定です。デジタルシティサービスの今後の展開や取り組みにご期待ください。

「[デジタルシティサービス](#)」や「[都市アプリケーション連携実装研究会](#)」の取り組みにご興味のある自治体の方は、下記お問い合わせ先にお気軽にご連絡ください。

■ご案内（お近くの方・ご興味ある方はぜひご参画ください）

- ・デジタル裾野協議会公開シンポジウム 2月24日(月) 午後 詳細は[こちら](#)
- ・デジタル〇〇の輪 Facebook では、各種イベント告知・報告を掲載しています。

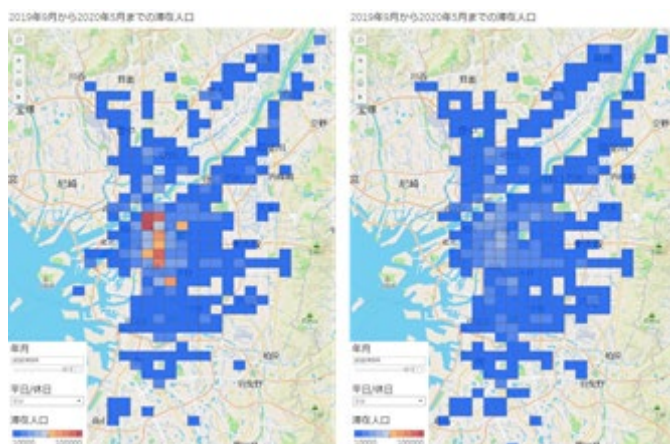
[デジタル裾野の輪 Facebook](#) ・ [デジタル南砺の輪 Facebook](#)

■本件お問い合わせ先

デジタルシティサービス事務局 Email : cpod-info (アットマーク) aigid.jp

5. 注目のコンテンツ紹介

全国の人流オープンデータ（1km メッシュ、市区町村単位発地別）



コロナウィルス感染者確認前後の1kmメッシュの滞在人口をTableauで可視化してみました。図左が2019年12月、図右が2020年5月です。大阪市を中心部では、緊急事態宣言により、滞在人口が少なくなったのが分かります。Tableauで2019年12月から2020年5月までの変化を確認できます。

*描画イメージは一例です。

[TABLEAU ページはこちら](#)
[対象データセットはこちら](#)

■G 空間情報センターお役立ち情報

◆ G 空間情報センターFAQは[こちら](#)

法務省登記所備付地図データ関連の情報等、よくあるお問い合わせを掲載しております。

◆[G 空間情報センターの YouTube チャンネル](#)をご活用ください☆

G 空間情報センターの使い方解説や、最新データセットの公開ご案内等、動画でご案内しております。チャンネル登録いただきますと、新しい動画の公開通知等が取得可能です。ぜひご活用ください。

◆ G 空間情報センターサイトからの[お問い合わせ](#)は、該当の[データセット名](#)と [URL](#) を併せてご連絡いただくとスムーズです。

ご意見・ご要望について

G 空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G 空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G 空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5 代々木伊藤ローヤルコーポ 304 号室

メール : info@geospatial.jp

TEL : 03-6455-1845

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。